

令和4年度 施政方針

(はじめに)

「Share Your Light (シェア ユア ライト)」。あなたは、きっと、誰かの光だ。

この言葉は、4期目を就任する際に所信表明でも申し上げた言葉でございます。東京2020パラリンピックの聖火リレーコンセプトであり、多様な、そして社会の中で誰かの希望や支えとなっている光(人)が集まり、出会うことで、共生社会を照らす力としようという想いが込められた言葉であります。

私が常々申し上げている「まちのことは自分ごと」と相通ずる言葉であり、ここで暮らしていくにあたり、自分のためだけではなく、誰かのために自分には何ができるかということをご皆さんが考えれば高浜市は必ずよくなる、住み続けたいまちになる、というのが私の信念であり、これからもつないでいきたい想いであります。

そうした想いを詰め込み、平成21年の就任早々に着手し、市民の皆様と一緒に作り上げ、「大家族たかはま」として取り組んでまいりました「第6次高浜市総合計画」も令和4年度をもって計画期間が満了となります。

また、1年延期を余儀なくされておりました高浜市市制施行50周年の記念式典・事業も多くの方にご協力・ご参加いただき、昨年中に開催をすることができました。また、45年ぶりとなる高浜市誌『高浜市のあゆみ』を発刊することもできました。これまで先人たちが築いてきた高浜市を振り返り、そして新たな未来への一歩を歩み始める、そんな時代の節目に今、私たちはいるのだと感じております。

新たな時代、新たな課題に対し、昨年7月20日には高浜市多文化共生コミュニティセンターを開設するなど、外国人住民の方にも住みやすく、暮らしやすい、多文化共生のやさしいまちづくりの実現に向け、さらなる一歩を踏み出しました。

また、公共施設の老朽化問題では、平成23年度の高浜市公共施設マネジメント白書の策定から始まり、利用実態を踏まえた機能重視型の機能集約・複合化を進めてまいりました。小学校を地域コミュニティの核とするモデル事業として完成した地域交流施設「たかぴあ」では、市制施行50周年記念式典や演奏会、文化協会芸能発表会、成人式、オニマルシェの開催などを通して、多機能な施設の姿を具体的にお見せする機会になったのではないかと考えており、今後はさらに、その可能性を広げていってほしいと考えております。

現在、図書館の機能移転につきましても検討を進めておりますが、新しい空間が市民の皆様が交流する場、活動につながる場、本を通して知識を深め、まちづくりを考えることができる場になれば良いと考えております。

第6次高浜市総合計画が総仕上げとなる本年度、着実な目標達成につなげていくとともに、長期化する新型コロナウイルス感染症に対し、新たな日常や地域経済を支えていくための支援、そして未来に向け躍動する若者たちを応援し、アシタを創っていくための令和4年度予算編成では、コロナ禍における限られた経営資源をより一層効果的・効率的に活用するとともに、各事業の必要性を検討し、未来を見据え真に必要なものとは何かを再認識し、それを形にしていく「未来を見据えたスタート予算」とし、「ゼロベースでの事業見直し」、「経常経費の見直し」、「重点取組事業への財源配分」という3つの基本的な考え方を掲げ編成いたしました。

「重点取組事項」につきましては、「公共施設総合管理計画の推進につながる事業」、「新型コロナウイルス感染症の影響に対する事業」、「教育環境の向上につながる事業」、「安心な子育て環境につながる事業」、「ICTを活用した行政サービスの推進につながる事業」の5事業としております。

（令和4年度の主要施策）

それでは、これより令和4年度の主要施策について、第6次高浜市総合計画の基本目標に沿って述べさせていただきます。

はじめに、基本目標Ⅰ「みんなで考え みんなで汗かき みんなのまちを創ろう」でございます。

新型コロナウイルス感染症の影響は、これまでのあたりまえを（日常を）見直す大きな転機となりました。地域活動のあり方やオンライン化の普及による人と人とのつながり方、各種サービスのデジタル化など、変化を余儀なくされました。そうした中、変化を恐れ拒むのではなく、また変化をただ見守るのでもなく、変化に適応し新たなチャンスを生み出していくことがこれからの社会では求められてまいります。

そのような社会の変化を見据えて、今後の新たな10年間を描き、まちづくりの道しるべとなる第7次高浜市総合計画では、新たに未来を見据える視点、連携して実施する視点、役割分担して実施する視点を加味し、SDGsの優先課題を紐づけ、まちづくり協議会をはじめ、多くの団体や市民の皆様とともに策定し、ともに実践していく計画としてまいります。

また、昨年開所いたしました多文化共生コミュニティセンターを中心とした外国人住民に対する日本語教室や情報発信を始めとした一元化窓口の充実にくわえ、性的マイノリティである方に対するパートナーシップ宣誓制度を制定し、多様性を認め合い、国籍、性別、年齢に関係なく、地域のすべての人たちが自分らしく住み続けられる環境を整えてまいります。

2021年9月1日、日本のデジタル社会実現の司令塔としてデジタル庁が発足し、12月には総務省からは自治体に対して自治体DX推進計画が示されるなどデジタル社会が果たす役割は重要な意義をもち、着実に進めていくことが求められています。これまで本市においてもテレワークの推進、オンライン会議、RPA等の環境整備を進め、費用対効果を踏まえながら取り組んでまいりました。

今後は住民の皆様の利便性がより向上するように、多くの行政手続きをオンラインで行えるように、昨年10月に「来庁者削減プロジェクト」を設置いたしました。

令和4年度は、マイナンバーカードを所有する方の転入・転出のオンライン手続きによる時間短縮化、ワンストップ化を図り、加えて子育て関係の申請・届出等の15のオンライン手続きを実施してまいります。

このように、窓口での申請などのデジタル化を進めるとともに、更なるマイナンバーカードの普及促進として夜間窓口や出張申請の実施に取り組んでまいります。

次に、基本目標Ⅱ「学び合い 力を合わせて 豊かな未来を育もう」でございます。

まちの伝統や歴史をつくってきたのは「人」、新たな歴史や伝統をつくっていくのも「人」であります。私たち大人が次の世代につなげていきたいものは、立派な施設でも設備でもなく、紡いできた人の想いや心であります。

一人ひとりの「まなび」をまちづくりへと還元し、ひとづくりへとつなげていく。ひとづくりとまちづくりが還流しあう高浜市の新たな生涯学習の方針となる第3次高浜市生涯学習基本構想を策定してまいります。

また、図書館の機能を「かわら美術館」と「いきいき広場」へ移転するための準備を進め、図書との出会いの機会をひろげ、本を読んだり、借りたりすることが中心の場から、子育て・子育ての場、図書を介した交流の場・学びの場といった新たな空間となることを目指してまいります。

学校教育では、GIGAスクール構想に基づくICT教育や小学校における英語の教科化など、より専門的な教育指導が求められる中、これまでの試行的な実践を踏まえ、小学校の教科担任制に関する研究を進めてまいります。また、高取小学校の長寿命化改良工事や南中学校のトイレの洋式化などを行い、ソフト・ハードの両面から教育環境を整えてまいります。また、子どもたちの12年間の学びや育ちを念頭に置き、さらなる未来を見据えた子どもたちの学びの方針となる第2次高浜市教育基本構想の策定に取り組んでまいります。

子育て・子育て支援では、3歳未満児の待機児童対策として、小規模保育事業の拡充により定員を増員するとともに、吉浜北部保育園に保育システムを導入

し、スマートフォンを活用した登降園管理ができるようになる等、保護者の利便性向上をはかり、引き続き安全・安心な子育て環境を整えてまいります。

次に、基本目標Ⅲ「明日を生み出すエネルギー やる気を活かせるまちをつくろう」でございます。

産業は、働く場や消費の場として市民の日常の暮らしを支え、まちの活力を生み出す基盤であります。長期化する新型コロナウイルス感染症の影響を受ける地域経済に対し、アフターコロナを見据え「新たな日常」の生活を支えていくためには、社会生活基盤の安定・維持に努めていくことが重要であります。

とりわけ、新型コロナウイルス感染症に対する地域経済支援として、高浜市クーポンブックの利用が4月よりスタートしてまいりますが、その他にも商工会など関係機関と連携し、地域経済の回復・活性化に向けて取り組むとともに、後期高齢者の皆様が市内で買い物や飲食をされる際のタクシー料金を助成し、さらなる消費喚起を図ってまいります。

また、経済活動を支える交通基盤の整備として、衣浦大橋の左折専用橋について、引き続き実施主体である愛知県に着実な工事の進捗を要請し、令和4年度末の完成を目指してまいります。

次に、安全・安心に暮らせる環境づくり、とりわけ「防災・防犯」は、市民のもっとも身近な、自分ごととして関心が高いものであります。

いつ起こるか分からない風水害や地震に対し、コロナ時代に対応した避難所運営訓練、企業との連携強化、地域人材の育成など、自ら守る、地域で守る防災体制の構築に加え、災害に備えて前もって自分のとるべき行動を時間軸でまとめた避難行動計画「マイタイムライン」の作成を、市民一人ひとりに普及・促進してまいります。そして、小学校児童向けに「マイタイムライン」のワークショップを開催するよう、各小学校と調整してまいります。

また、雨水排水対策として進めております八幡町・新田町の排水設備の実施設計を行い、局地的集中豪雨等の自然災害に対する防災基盤強化にも取り組んでまいります。

最後に、基本目標Ⅳ「いつも笑顔で健やかに つながり100倍ひろげよう」でございます。

福祉・医療では、引き続き、最重要課題である新型コロナウイルス感染症対策に取り組んでまいります。デルタ株、オミクロン株と新たな変異株が発生する中でも、安全・安心な日常生活を送れるよう3回目のワクチン接種を速やかに進めるとともに、5歳から11歳の小児のワクチン接種についても最優先事項として取り組んでまいります。

また、障がいのある方もその人らしく、将来にわたり高浜市で安心して暮らしていけるよう、手話は言語であることを明確にするとともに、手話がどこでも自由に使える地域社会を目指すスタートとして、手話の普及啓発や施策推進に関する環境整備を進める手話言語条例を本議会に上程をさせていただいております。

さらに、高齢者の方々が、住み慣れた地域でいきいきとした生活を送ることができるよう、これまでのホコタッチを活用した認知症予防の取組を継続するとともに、更なるステップアップを目指してまいります。高浜市を研究フィールドに、国立長寿医療研究センターと共同で新たな研究事業に取り組み、認知症予防に関するプログラム開発を行うとともに、認知症に強い地域づくりを目指してまいります。

以上、令和4年度の市政運営に当たり、重点施策について、申し述べさせていただきました。

(結びに)

「ネガティブ・ケイパビリティ」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。

イギリスの詩人ジョン・キーツが、不確実なものや未解決のものを受容する能力を表現する言葉として使い、数多くの訳語が存在しますが、「答えのでない事態に耐える力」と訳すことができます。人は分からないものや不確実なものに耐えがたく、仮の回答を見つけないという欲望からすぐに答えを求めがちになりますが、「ネガティブ・ケイパビリティ」とは不確実な状態に努力して耐え、希望を見いだしていく態度であり、その先の深い発展的な理解を導き出していくという考え方です。

新型コロナウイルス感染症や少子高齢化、災害対策、公共施設の老朽化問題など、本市のみならず社会を取り巻く課題は多種多様化しており、一足飛びに、こうしたらよい、こうあるべきという答えを出すということは困難であります。しかしながら常に先を見据え、未来を生きる子どもたちのために、答えを探し続けていかなければなりません。その過程の中では耐えるといった局面も出てまいります。耐えたその先には、必ず希望の光があると私は思っております。

本市では第6次総合計画において「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」という将来都市像を掲げてまいりました。その中にある「大家族たかはま」には、家族のように我慢するときもあれば、みんなでがんばるときもある、そうした中で、みんなで助け合って、問題を解決し、喜び・幸せをみんなで分かち合っていくという意味が込められています。

その想いは第7次総合計画の将来都市像にも引き継いでまいります。

「大家族たかはま」。私が市民の皆様と歩んできた市政はこの言葉とともにあ

ります。今後も様々な苦難があると思いますが、「大家族たかはま」一丸となり、これを乗り越えていけるよう全力で邁進してまいります。

今後とも議員各位並びに市民の皆さまのより一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます、令和4年度の施政方針とさせていただきます。